

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、_：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子から、買物に少し前向きという雰囲気が漂っている。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・特別顧客招待会を催した結果、売上前年比250%、買上点数前年比200%、買上客数185%と大幅に達成した。 ・秋物受注会を催したら売上予算の150%を達成した。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・顧客特別優待会では、一点買いからコーディネート買いへの変化が見受けられ、客単価が上昇してきた。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・依然として競合状況は厳しいが、一品単価は上昇が見込めないが、客数増により補てんしている。 ・農産品の相場高の影響もあり、客単価も買上点数減少を補てんしている。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・客の購買意欲が高まって、買上点数などが上向いている。
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・昨年の冷夏の反動が、乳飲料の動きが良く、売上が7～8ポイント前年より増加した。 ・完成食材の総菜も動きが良く、客単価が2～3ポイント増加している。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・客単価が、前年100.3%と前年比を超えてきており、1人当りの購買数が増加してきている。客数も今月に入り98.4%と前年割れしているが、先月対比では3.4%の伸びを見せている。
		コンビニ（エリア担当）	それ以外	・旅行の団体客を良く見るようになった。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	販売量の動き	・高額商品と低額商品の2極化がさらに進んだ。 ・父の日プレゼントも昨年よりかなり数量アップした。 ・薦めれば、まとめ買いをする。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	来客数の動き	・単価は変わらないが客数は戻ってきており、前年を上回っている。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	販売量の動き	・一品単価は低下しているが、客数や買上点数が増加している。
		その他飲食 [ハンバーガー]（経営者）	単価の動き	・客数も増加しているが、値段の高い新商品が客単価を上げており、売上増につながっている。
		都市型ホテル（総務担当）	来客数の動き	・外国人客が増加傾向にある。 ・単価がやや増加傾向にある。
		タクシー運転手	来客数の動き	・ボーナスが出たためか一万円札を出される客が増えた。
		タクシー運転手	販売量の動き	・昼間の客数は減少しているが、ボーナスの影響で、夜間の客数が少し回復してきている。
		通信会社（総務担当）	販売量の動き	・売上も上昇しており、販売量も伸びてきている。
		テーマパーク（業務担当）	お客様の様子	・来園者数が堅調である。
		パチンコ店（総務担当）	来客数の動き	・客もボーナスが支給されて、多少お金が回っている。
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・年齢層が中高齢者に限定され、若い人の来客が少ない。
一般小売店 [靴]（経営者）		お客様の様子	・依然として、必要な物のみ購入する傾向が見られ、同時に予算を必ず守ろうとする傾向も見られる。	
一般小売店 [茶]（経営者）		販売量の動き	・5月後半から売上が落ち始め、6月も落ちている。郵送小包の注文数も5%減少している。	

百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・お中元の早期割引が好調である。しかし、このことから客の価格に対するシビアな視点がうかがえ
百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・中元を中心として好調に推移している部門もあるが、依然として、主力の紳士衣料婦人衣料とも前年比二けた減少が続いている。全体では前年並みの売上で推移しているが、主力商品の不振は続いている
百貨店（購買担当）	お客様の様子	・7月のバーゲンが近いため下見の客は増加しているが、商品をお勧めしても購買に結び付かない。景気回復が伝えられる中、購買については依然慎重な気配である。
百貨店（売場担当）	お客様の様子	・売出しやDM発送時はそこそこ集客があるも、その他の通常日は来客が非常に少なく、月後半には、バーゲン待ちの様子がみられた。
百貨店（営業担当）	お客様の様子	・セールが早期スタートしている中でまとめ買いは少なく、本当にほしい物を1点だけ厳選して購入する客が多い。
スーパー（店長）	単価の動き	・総額表示後の売価割高感からか、買上点数減少が続いている。 ・チラシなどによる買い回りが顕著に見られる。
スーパー（店長）	単価の動き	・1人当たりの買上点数も伸び悩み、競合他社も苦戦している様子がうかがえる。
スーパー（店長）	単価の動き	・客数、販売点数は、前年比の102%から103%に推移しているが、総額表示の影響で、5%分が全ての商品の旧売価に含まれる傾向が徐々に強まってきていることから、売価を圧迫している。
スーパー（店員）	販売量の動き	・客の総額表示による割高感は依然変わらず、売価に5%転嫁することができない。 ・酒類免許自由化の影響で、競合店が酒類を扱いはじめ、売上が予想以上の20%減少した。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・上半期を振り返ってみると、全体的に若干ずつ上向きである。しかし、まだまだ楽観視はできない。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来店客数は前年を5%程度上回っているが、ここ数か月大きな変化はなく横ばいの状況である。
コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・気温の関係で、アイスクリーム、飲料は好調であるが、依然として、酒類及び酒類と関係した惣菜の売上低下は続いており、全体的な傾向は変わっていない
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・来店はあるも、バーゲンの下見のような状況である。
衣料品専門店（店長）	単価の動き	・6月に入り、来客数の動きは普通であったが、客単価がかなり低下した。
衣料品専門店（販売促進担当）	来客数の動き	・売上は前年とほとんど変わらないが、客足が伸びてきており、ショートパンツ、タンクトップ、シャツなど夏物が非常に好調に推移している。 ・割引の案内を顧客に出しても、最近、客の動きはなくなった。
家電量販店（店長）	来客数の動き	・エアコンは好調に推移しているが、その分、他の商品の動きが悪く、全体的には、例年と変わらない
家電量販店（副店長）	販売量の動き	・OA商品の販売構成比が低くなっている。その中でも構成比の高いPCの販売台数が減少している。
乗用車販売店（統括）	お客様の様子	・造船は景気が良くてお金が落ちるはずなのに、地元には落ちてこない。鉄が好況な地域でも、地元にはお金が落ちてないようだ。
乗用車販売店（サービス担当）	お客様の様子	・修理のための在庫台数が減少しており、前年比95%である。
乗用車販売店（販売担当）	競争相手の様子	・受注の県内市場は前年比100%で推移している。新車が出たディーラーは200%で推移しているところもあるが、そうでないディーラーは50%で推移しているところもあり、受注は景気ではなく商品に依存している。お客の財布のひもは依然として固い。
乗用車販売店（営業担当）	来客数の動き	・新商品による来場客数増加は図れているが、絶対的な新規客数が増えていない。
自動車備品販売店（経営者）	来客数の動き	・一部高額商品に動きはあるものの、来店客数は5月連休以降伸び悩んでいる。前年度の年間の客数前期比をも下回っており、「回復」の実感はない。

	住関連専門店 (営業担当)	お客様の様子	・新築、婚礼などの客数は変わらないが、必要な物であっても購買をちゅうちょする傾向が見られる。
	高級レストラン(スタッフ)	来客数の動き	・企業関係の需要が、夜の方がかなり低迷し、厳しい状況となっている。
	一般レストラン(経営者)	来客数の動き	・家族連れが増加しており、1名当たりの飲食個数も増加しており、前年並みにはなりそうであるが、あくまで「前年並み」である。
	一般レストラン(店長)	来客数の動き	・週末、日祝日の集客は前年並みだが、平日の集客に各店苦戦している。
	観光型ホテル(スタッフ)	販売量の動き	・3か月前、また昨年より、先行予約数は少なくなっている。
	旅行代理店(営業担当)	来客数の動き	・年齢、性別に関係なく、動きが活発になった。
	タクシー運転	販売量の動き	・6月になって初めて昨年対比100%となった。
	通信会社(広報担当)	販売量の動き	・契約数の増加数が更に鈍化傾向にある。 ・他社とのシェア争いは依然厳しい。
	テーマパーク(財務担当)	来客数の動き	・週末の悪天候の影響で来客数が減少した。 ・団体予約も減少した。
	美容室(経営者)	お客様の様子	・お客様の様子に、単価の高いものを控えている傾向が見られる。
	設計事務所(経営者)	来客数の動き	・動きが低調である。 ・売上予算的に厳しい顧客が多い。
	設計事務所(経営者)	販売量の動き	・全体的な工事の量は依然として少なく、改善する兆しはない。
	設計事務所(経営者)	お客様の様子	・商店街内の集会、同業他社の集会においても、景気のいい話は聞かれず、近隣で倒産も発生している。
	設計事務所(職員)	販売量の動き	・近傍の休耕田に一戸建住宅の新築が多く、売れ行きも好調である。
	住宅販売会社(従業員)	お客様の様子	・展示場への来場客数は、多少横ばい状況で推移しているが、来場者の購買意欲がでていない。 ・問題が発生している自動車会社関連の客も多数いるため、今後の状況不安を良く語られている。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	来客数の動き	・来客数、販売額ともに減少している。
	商店街(代表者)	単価の動き	・ベビー子供服業界は、相次ぐ大型店出店で供給過多となっており、価格維持が難しくなってきた。
	商店街(代表者)	来客数の動き	・依然として、商店街への来街者が大変少ない。
	一般小売店[100円商品](店員)	単価の動き	・買上点数が少し減少している。
	百貨店(販売担当)	販売量の動き	・売上高、来店客数とも前年を下回っている。 ・パラソル、サンダルなど季節商品も、売上が前年比80%と低迷している。
	スーパー(店長)	来客数の動き	・客の購買が、必要な物以外は購入しない傾向が目立つ。
	スーパー(店舗運営担当)	来客数の動き	・競合店の出店より、客数が1日当たり約200人減少している。 ・総額表示により、一人当たりの買上点数が、0.5個減少している。
	乗用車販売店(経営者)	販売量の動き	・先月も今月も自動車市場は前年割であり、先行きが不安である。
	住関連専門店(広告企画担当)	単価の動き	・以前と変わらず、どんどん単価が下がってきている。結婚を急ぐあまり、きちんと周り相談して先を見据えたグレードのものを購入されないため、単価が上昇しない。 ・新築の方も低年齢化が進んでいるようで、予算的に苦しいのが、これもやはり単価が上昇しない。
	観光型ホテル(スタッフ)	お客様の様子	・地元企業の利用、団体客の利用が減少している。
	都市型ホテル(従業員)	単価の動き	・和食、洋食レストランとも客数は横ばいであるが、特に和食レストランは客単価が落ちており、企業接待、個人消費ともに落ち込んでいる。
	都市型ホテル(スタッフ)	来客数の動き	・インターネットによる個人客は増加しているが、団体客は減少している。

		通信会社（社員）	販売量の動き	・販売量に加え、来客数も減少している。
		住宅販売会社（経理担当）	来客数の動き	・値引きチラシなどによる販売キャンペーンが一巡した後はモデルルームへの来場者が大きく減少し、契約数も予定を下回っている。
悪く なっている		商店街（代表者）	販売量の動き	・客が来ない状況であり、大変に悪くなっている。なぜそうなったか全く分からない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数の動きにも、客自身にも不景気感があり、買い控えが続いており、先が見えない閉そく間が漂っている。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・セールの始まりが6月末から7月となり、6月単月では前年度95%である。 ・今まで好調であったミセス層の強い主力店舗が不振となり、ヤング層の不振と重なって、顧客の百貨店離れが始まっている。 ・客の価格に対する考えが非常にシビアになっており、お中元の早期割引会もインパクトなく、前年度を割っている。
		その他専門店【スポーツ】（店長）	来客数の動き	・前年に比べ、本通り商店街からの来店数が約20%減少している。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・3か月前より来客数が15%落ちている。少し値上げをしたためと考える。
		タクシー運転手	お客様の様子	・昼も夜も客の動きが悪く、3か月前から売上が低下し続けている。
		テーマパーク（広報担当）	来客数の動き	・来客数が周辺地域含めて、落ち込んでいる。
		ゴルフ場（営業担当）	来客数の動き	・来客数の動きに加え、客単価の動きも更に悪くなってきている。
企業 動向 関連	良く なっている			
	やや良く なっている	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・当社の主力取引企業の設備増強により、10月以降出荷が期待できる（自動車産業・電気産業向け）。当社についても、夏ごろ新事業向けの設備投資が発生する見込みである。
		金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・得意先からの受注が、当社ではさばききれないほどある。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・夏の猛暑を見こんだエアコン、自動車が好調であり、携帯電話を上回っている。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・原材料の値上げなど、不安材料はあるが、受注が引き続き好調に推移している。
		輸送業（統括）	取引先の様子	・取引先の中元シーズンが始まったため臨時運行が増加した。
		金融業（業界情報担当）	取引先の様子	・輸出を中心とした新車の販売好調を背景に、生産水準は高水準を維持している。単価引下げ要請は厳しいが、量産効果で増益基調を確保。設備投資も前年比プラスを計画する先が多い。
		広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・国の支援を得て再建する大手紡績業の工場閉鎖や、県中央部合併の白紙化などマイナス要因はあったが、中国地方大手の自動車製造業をはじめとする企業、特に地元最大手の素材型企業が中国に向けて増産を重ねており、人材派遣や個人消費が伸びている。不動産取引がもっと伸びれば本格的なものになると見込んでいる。
その他サービス業【清掃具レンタル】（情報管理担当）	受注量や販売量の動き	・予算達成率100%の見込みであり、新規事業売上も含めると、前年売上100%の見込みである。		
変わらない	食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・OEMの食品部門で、リニューアルの関係上若干増えた部署もあるが、全体的に減少傾向である。	
	化学工業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・先月から大きな変化はない。社内は全般に高稼働率であるが、デフレ圧力に加え物流費・原燃料費の高騰により利益が上がりにくい。	

	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・大口案件の受注、出荷も久しぶりにあり、ほぼ計画通りの生産、出荷が見込める。		
	鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は横ばいであり、在庫量が若干増えている状況である。		
	一般機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・北米を中心とした海外向け自社製品の売上が好調である。		
	建設業（営業担当）	取引先の様子	・民間工事の発注は、デベロッパーによる発注に偏っており、製造業における発注はまだまだ少ない。		
	通信業（営業企画担当）	受注量や販売量の動き	・企業向け通信サービスの受注量に顕著な伸びはみられず、この四半期はやや一服感がある。受注内容は相変わらず低価格商品へのシフト傾向が続いており、通信業界の景気上昇は当面望めない。		
	通信業（社員）	受注量や販売量の動き	・既存のお客様へのリピート営業での受注は昨年並み程度を確保できる見込みであるが、景気が良くなったと身をもってまだ感じられない。新たな提案先を絞りこみ奮闘しているが、厳しいものがある。受注まで至っていない。		
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・各業界とも、仕事の絶対量が少なすぎるが、しかし、採算割れの競争はあまり聞かなくなっている。		
	コピーサービス業（管理担当）	受注量や販売量の動き	・大口の商談は減少しているものの、小ロットの受注は変わらない。		
	やや悪くなっている	その他製造業 [スポーツ用品]（総務担当）	受注量や販売量の動き	・国内生産のみの当社に対する受注状況は種類だけ増えるだけで、全体の数量は減少傾向にある。	
		建設業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・例年、受注量は落ちる月ではあるが今年の落ち込みは激しい。公共工事が減少しているため、他社との競争が激化している。	
	悪くなっている	-	-	-	
雇用関連	良くなっている	求人情報誌製作会社（支店長）	求人数の動き	・業種的に厳しいといわれてきた建築、土木業でも、利益率が低いものの設備投資需要に対する仕事量が増加していて、ピンポイント採用ではあるが求人需要が増えつつある。	
	やや良くなっている	人材派遣会社（支店長）	採用者数の動き	・各社一斉に採用に積極的になりつつあるが、東名阪に比べ出遅れた分、人は外に流れ、求職者が不足し、人が採用し切れないことによる負のスパイラルの傾向も見られるようになってきている。	
		新聞社 [求人広告]（広告営業担当）	求人数の動き	・景気回復傾向の一つの目安として、新聞求人広告数が、ここ2～3か月、増加傾向にある。	
		新聞社 [求人広告]（担当）	周辺企業の様子	・新しい新聞広告の出稿が、良いところで目立ち始めてきている。	
		新聞社 [求人広告]（担当）	求人数の動き	・今までになかった旅行関係の臨時募集の広告が出てきている。	
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数の増加傾向が見られる。	
		民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・正社員数10人未満の会社から、新規事業の立ち上げ要員を求めたり、パート管理として正社員を雇用する余力が出てきたなどの声が聞かれたため。	
		学校 [大学]（就職担当）	求人数の動き	・新卒求人の伸びは続いている。 ・倫理憲章の遵守による余波などで追加求人も増加している。	
		変わらない	職業安定所（雇用開発担当）	求人数の動き	・求人数が依然として大きな動きがなく横ばい状況である。
			職業安定所（職員）	雇用形態の様子	・前年同月に比べ、求人数は増加しているものの、雇用期間の定めのある有期雇用や、派遣求人が多くなっている。
		民間職業紹介機関（職員）	周辺企業の様子	・ある大手ソフト開発関連企業で若手のシステムエンジニアの余剰が発生している。理由は外国(中国)のシステムエンジニアに仕事をさせているためであ	

	学校 [短期大学] (就職担当)	採用者数の動き	・ 求人票の受理件数も思いのほか伸びておらず、また、学生からの内定報告もまだほとんど無い状態で、昨今のマスコミが報じる景気の好転のニュースからは一線を隔している状況。一部の業種・企業からは設備投資などの話も聞かれるが、多くの地方企業はまだ身を固くしており、厳しい状況は依然として変わっていない。
やや悪くなっている	職業安定所 (職員)	求人数の動き	・ 求人開拓活動を進めているが、ほとんどの企業で定期採用や増員の方法が立っていない。
悪くなっている	-	-	-